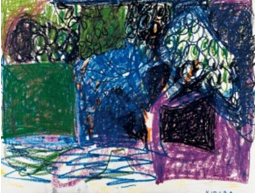


木村展の楽しみ方をいろいろな人に聞く「木村忠太展の歩き方」④

最終回はおしゃべりミュージアム！&ノートでおしゃべりミュージアム！から。



《クロ・サン・ピエール》(パステル)



《木陰》

「遠くから斜めに見ると、クロ・サン・ピエールはちらちらと木漏れ日が動くみたい。木陰はすごく立体的な空気感があります。」(40代女性)

…なるほど本当ですね！すごい！（学芸員）



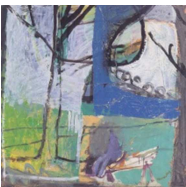
《ファイアンス》



《プロヴァンスの旅》

「色からラベンダーを想像します。香りに包まれる気持ちがあります。《プロヴァンスの旅》は小さいからお部屋に飾りたい。ラベンダーのアロマ効果がありそうです。」(40代女性)

…もしお部屋に飾るならという目線、楽しいですね！（学芸員）



「絵肌の透明感がなんともいえない。ベンチに座る人物より、やはり色だな…目に飛び込んでくのは。」(40代男性)

《ベンチに座る人》

…何が描かれているかではなく、どんな風に描いているかも、絵を見る楽しみですよ。（学芸員）

「印刷されたものでは、ダイナミックな絵具の盛り上がり、筆遣い、色の下に透けて見える色など感じることはできません。実際に見て感じられて良かったです。」(Sさん)

「何かに導かれて、神様のつくった地球を美しく描いているような気がします。」(Sさん)

「『透明感』があってすごくきれい！」(Kanaさん)…イラストありがとうございます。（学芸員）

「3階奥の、作品が動き始め、中々仕上がらない時代の作品は、もがき苦しんだからこそ現れる、本質の美しさに心打たれました。魂の光の瞬きや、叫びの様な線が私の胸に突き刺さりました。そしてそれはとても美しく、熱く、身体中の細胞を活性化してくれる物でした。」(版画家、大川みゆきさん)